

## 研究のためカルテの情報を使用させて頂いています

### ◎対象となる患者さん: 肝臓癌で入院され手術された方

#### 1、研究の題名『肝臓がん術後1か月後の身体活動量と半年後の生活の質との関連性』

研究期間： 2021年9月1日 ～ 2025年3月31日

#### 2、研究の目的

近年、がんの生存率は改善しており、がんを患った後に治療を経験して、地域に帰って元の生活を取り戻していく方々も多くいらっしゃいます。肝臓癌の手術後にも地域に戻り元の生活を送る方々は多くいらっしゃいます。このような方々にとって、生活の質や身体の機能を術前と同じぐらい維持することで健康寿命を延長することは非常に大切なことです。

身体の活動性を維持することは、生存率が改善して重要であることは多くの研究で示されております。また、当院で過去に行われた研究でも、肝臓がん術後に身体の活動性を維持した方々が在院日数や手術後に歩行が自立するまでの期間が短かったという結果を示してきました。一方で、肝臓がん術後、自宅に退院した患者様の身体の活動性が、その後の生活の質にどのように影響を与えるかを示した報告はございません。本研究により肝臓癌術後に地域に戻る方々の生活の質が低下する可能性や健康寿命が低下する可能性を術後早期に予測することが出来るようになる可能性があります。術後に生活の質や健康寿命が低下しそうな方を早期に発見して介入することで、手術した後も質の高い生活を送っていただくことを研究の目的としております。

#### 3、以下の期間に上記(◎対象となる患者さん)を満たした方が対象です

対象期間： 2021年9月1日 ～ 2024年3月31日

#### 4、本研究で使用する情報について

本研究に関して[診療記録 / 試料]から以下の情報を取得します。

##### [背景や医学的な情報]

年齢、性別、身長、体重、Body mass index(以下 BMI) 肝臓癌ステージ、腫瘍径、在院日数、併存疾患指数(Charlson Comorbidity Index: 以下、CCI)、手術後に発生した合併症とその種類

##### [検査や手術の情報]

術前のAlb、C反応性蛋白、術式、術部位、出血量、手術時間、麻酔時間

##### [身体機能や活動性の評価]

Functional Independence Measure(以下 FIM)、握力、4m歩行、Skeletal muscle mass Index(以下 SMI)、体組成で得られる位相角(Phase Angle)、6分間歩行試験の距離、サルコペニアの有無、Lever Frailty Index、SF-36、問診による運動習慣の有無、間食の有無

**5、取得情報の利用範囲**

飯塚病院 で使用します。

**6、本研究の責任者**

この研究の責任者は以下の者です。研究の成果を学会や論文等で発表する際には名前等を番号や記号に置き換え個人が特定できない様に行います。また、この研究にあたり個人情報の漏洩等がないよう取得した情報等を管理し、患者さんに不利益がない様責任を持ちます。

(科名又は部署名)リハビリテーション部  
(研究責任者名)奥野将太

**7、対象となる患者さんまたはそのご家族等の方へ**

この研究にあなたの情報が使用されることを希望されない場合や疑問点などがありましたら、ご遠慮なく下記連絡先までご連絡ください。お申し出頂いても、不利益を被ることは一切ございません。どうぞ、ご安心ください。

また、この研究の計画書を研究に支障のない範囲で閲覧することができます。その場合も下記連絡先までご連絡下さい。

(連絡先)0948-22-3800(代表)  
(担当者名)奥野将太 ( リハビリテーション部 )